

令和元年度 政務活動報告書（1）

会派又は議員名 公明

政務活動期間	令和元年7月8日～10日（3日間）
政務活動先	香川県三豊市・高知県宿毛市・愛知県宇和島市
政務活動参加者	五十嵐信子・佐々木常子（公明） 高谷 茂・島田 裕司・秋場 陽一（緑風会）（5名）
政務活動項目	○バイオマスセンター資源化みとよ視察 ○株式会社グリーンエネルギー研究所視察 ○庁舎建設について ○災害用井戸について
政務活動項目に係る （目的・結果等の概要・所見）	別紙のとおり

令和元年度 政務活動報告書

公明 五十嵐 信子

政務活動期間 令和元年 7月8日(月)～10日(水) 3日間

政務活動先 香川県三豊市・高知県宿毛市・愛媛県宇和島市

政務活動参加者 [緑風] 高谷 茂 ・ 島田 裕司 ・ 秋場 信一
[公明] 五十嵐 信子 ・ 佐々木 常子

政務活動項目 7/8(月)

*香川県三豊市 株式会社 エコマスター
代表取締役 海田 周治
バイオマス資源化センターみとよ
センター長 鎌倉 秀行
三豊市 市民環境部 環境衛生課
課長補佐 白井 肇
主任主事 今井健太

「可燃ゴミ」を燃やさず「資源」に。微生物の力で燃やせるゴミをエネルギーに再資源化する、バイオマス資源センターみとよを視察した。

生ゴミなどを発酵、分解し、その際に発する熱で紙ゴミなどを乾燥させ固形燃料の原料として取り出すことにより 二酸化炭素の排出(CO₂)の排出を抑えダイオキシン類も発生しないゴミ処理は 環境にとって素晴らしいと思った。

脱臭装置も備えて、臭いは木質チップ層通過時に微生物が分解するので、常に気圧の低い状態を保ち、外部への臭気漏れを防ぐ。水も発酵用に消費し排水は発生しないという仕組みとなっていた。(脱臭施設は杉を利用して良い香りがしていた)

煙突も焼却炉もない倉庫のような施設内に、コンクリート製発酵槽「バイオトンネル」が並びここに17日間、ゴミを閉じ込めて微生物の分解処理を待つ「トンネルコンポスト式」と呼ばれる 欧州で盛んな先進モデルを民設民営で導入した三豊市の取り組みは環境省も支援しているので 全国の自治体も注目されており、生ゴミは焼いて埋め立てるという「常識」に大きな変革をもたらす可能性を秘めた、次世代モデルとしての期待は大きいものだと感じた。

関係者の皆さんと 有意義な意見交換ができた。

7/9 (火)

*高知県宿毛市 株式会社 グリーン・エネルギー研究所
宿毛バイオマス発電所 所長 平尾 強一

高知県内の森林資源を活用することにより、再生可能エネルギーの普及と地域経済の再生を通じて 地域社会の持続的発展に貢献している (株) グリーン・エネルギー研究所を視察した。

[木質ペレット製造事業]

ここでの木質ペレット製造では、県内の木質ペレット利用者の需要を県内でまかなう「地産地消」を進め 森林環境の保全と山間地域の雇用拡大に繋がることを目指していた。

[木質バイオマス発電事業]

ここでの木質バイオマス発電では、間伐材や林地残材、製材端材さらには樹皮(パーク)などのこれまで利用していなかった材をエネルギー源とした木質バイオマス発電事業を展開。発電燃料として未利用資源を活用することで、森林環境の保全を促し 山間地域での雇用拡大を促進する付随効果も期待し事業を行っていた。

株式会社グリーン・エネルギー研究所は完全民間企業で、大学発のベンチャー企業であった。職員のほとんどが技術の有資格者である。

*高知県宿毛市議会 議長 野々下 晶史

*高知県宿毛市役所 総務課長補佐 長山 敏昭
総務課管財係長 川田 匡一
総務課契約係長 上岡 信勝

宿毛市役所にて 野々下議長のあいさつの後、総務課の職員より調査事項の説明を受ける。

・宿毛小中学校合築校舎建築について

- ① PFIを活用した建設となった経緯とその効果について
- ② 建設規模と建設費について
- ③ 宿毛市プロポーザル審査委員会条例をどう活用したのか

・庁舎建設について

- ① 移転となった経緯について
- ② 移転に対する住民の理解をどう求めたか
- ③ 複合施設となるのか

資料等はいただけなかったが、項目ごとに意見交換をさせてもらった。

*愛媛県宇和島市議会 松本 孔 議員

*宇和島市役所市民環境部生活環境課 職員

宇和島市では平成 25 年度から 大規模な災害が発生し、水道の給水が停止した時 市民・事業者が所有又は管理し、かつ、現に利用している井戸のうち 被災者の方々へ トイレや洗濯などに使う「生活用水」として井戸水を無償提供していただける井戸を「災害応急用井戸」として登録しているので松本議員宅を視察した。その後 移動途中において 吉田地区の土砂崩れの現場や被災状況の説明を受ける。

市役所にて 宇和島市「災害応急井戸」の手引きについての説明を受ける。

西日本豪雨災害の際、市内の吉田浄水場が破壊され、市の一部で長期間にわたり断水が続いた。飲料水は救援物資や自衛隊などで対応してくれたのであまり困らなかったが、生活水の確保が緊急の課題であった。その時に役立ったのが、災害応急用井戸。登録井戸のある自治会内の住民に広く活用され大変喜ばれたとの事。自治会に加入されていない方からの要望もあり 平成 31 年 4 月以降は 宇和島市ホームページ等に「掲載同意をいただいた登録井戸」の地図情報等の掲載もおこなっていた。

自治会長に一軒一軒回ってもらい 大変かと思うが 自分の町内会にこれだけの井戸があると皆さんに理解してもらえるので、地域の防災意識も高まり良い結果となっていると話されていた。日頃の 地域での声の掛け合い・支え合いが改めて重要だと感じた。

*宇和島市議会 表敬訪問 議長 清家 康生

7/10 (水)

*宇和島市内視察 (道の駅等)

19:00 千歳空港着 20:30 当別町着

令和元年度 政務活動報告書（2）

会派又は議員名 _____ 公 明 _____

政務活動期間	令和元年8月13日（1日間）
政務活動先	石狩市
政務活動参加者	五十嵐信子・佐々木常子（2名）
政務活動項目	○石狩市北石狩衛生センター
政務活動項目に係る（目的・結果等の概要・所見）	別紙のとおり

令和元年度 政務活動報告書

公明 佐々木常子

政務活動期間 令和元年 8月13日 (火) 10:00～
政務活動先 石狩市
政務活動参加者 [公明] 五十嵐信子 佐々木常子
政務活動項目 石狩市 北石狩衛生センター

石狩三友メンテナンス株式会社

工場責任者

課長 松井隆幸

石狩市 環境市民部 ごみ・リサイクル課

課長 石倉 衛

主任 小島義宗

主査 綿部道夫

当別町のごみが、どのように処理されているか確認することができ、分別がしっかりできていないと危険である事など非常に勉強になった。

燃やせないごみの処理後、活用できなくなり（処理会社がなくなったため）最終処分場行になった事は残念であった。

草木を拠点回収して、たい肥化する「みどりのリサイクル」、ミックスペーパーとしてシュレッダーごみも回収（紙袋に入れ紙ガムテープでしっかりとめる）これはモデル収集として当別町でも取り組んでいきたいと思った。

人が生きていく限りごみが出る、ごみ減量にさらに取り組み、できる限り循環できるよう取り組んでいく事が大切であると思う。

令和元年度 政務活動報告書（3）

会派又は議員名 公 明

政務活動期間	令和元年8月21日（1日間）
政務活動先	北海道大学公共政策大学院
政務活動参加者	五十嵐信子・佐々木常子（2名）
政務活動項目	○地方議員2019サマースクール
政務活動項目に係る（目的・結果等の概要・所見）	別紙のとおり

令和元年度 政務活動報告書

公明 佐々木常子

政務活動期間 令和元年 8月21日(水) 13:00～

政務活動先 北海道大学公共政策大学院

政務活動参加者 五十嵐信子 佐々木常子

政務活動項目 地方議員 2019 サマースクール

13:00～ 開講挨拶

遠藤乾 北海道大学公共政策大学院院長

写真撮影(集合写真)

13:30～ 「地域防災力向上に向けて」

岡田成幸 北海道大学広域複合災害研究センター 特任教授

14:45～ 「災害復興法学のすすめー生活再建と知識の備えの防災教育」

岡本正 弁護士・岩手大学地域防災研究センター客員教授

16:20～ 「平成30年北海道胆振東部地震災害検証を踏まえた防災対策」

辻井宏文 北海道総務部危機対策局長

17:00～ 終了証書授与

遠藤乾 北海道大学公共政策大学院院長

○地域防災を向上させていくには公助が自助・共助をどうサポートするかが大切である。自然災害は弱者を狙い打ちする。危険なところに住んでいる人ほどお金がかかり本当に必要な耐震化ができない。災害を端緒に地域消滅が助長されてしまう。

○災害を乗り越える知恵の備蓄が大切「災害を自分ごと」に、「罹災証明書」を必ずもらう等、有益の支援制度を周知させていかなければならない。

○防災にはマニュアルに基づいた訓練が大事であり、特に一泊の訓練が非常に有効である。

とても勉強になりました。当別町でも進めていきたいと思う事がありました。